無限階級方方程式の局所可解性

九大理 石林隆 — isHimura, Ryvichi

0. 序

X を C^n の 開集 G、 Z_0 を X_0 た X_0 に X_0

ここでは先ずもう少し一般的に、連続を線型写像 P:Q。→Q。とは何か、といことを考えることから始め、それがやはり無限階の微分作用素の形になることを見る。さて、一方無限階の微分方程式

(0) P(X,Dx)以= 乙以以及以=子 (4,5 ∈ Oz。) について、その重要件全と歴史については 青木[1] に記されているが、そこ にあるように、何れの場合も作束は定数係数の場合があれどであった。 (かく) 変数係数の場合にかいてごく最近になって、(6)で扱ったようないくつかの型の方程式や、代数的に特殊を型で、かっ有限指数をもっ(青木-柏原-河台[3])作用素で定義工れた方程式については、(0)の局所可解性が証明されるようになってきた。ここでは、前記のような場合なれた無限階機分作用素(こついて、機分方程式(0)の局所可解性を考える、以下ではスニのと(で考えることにする、

1. 一点における微分作用系

先ず記号を準備する: 3,100 に対し、次のように書く、

3.2= (3,2, 3,2, ..., 3,2,)

ず = (また、また、 …、また) 但(ま、、ま。、 …、ま、 + 0 。

「引 := (1311、1321、…, 1311) ここで 3=(31、32、…, 31) we.

$$b_{m}(x) = P\left(\frac{x^{m}}{m!}\right)$$

とかく、以下 P:00 つのは車続線型写像とする、

| 村殿 | 増加 函数 Λ 、 $R_r^r \to R_r^r$ があって、 仕意の $\Gamma \in R_r^r$ に対し、 P は連続 線型写像(P と書く): $H_r^n \to H_{\Lambda}$ (r) を定める。

(証明). H_r^{∞} での単位まむを B_r で表めすと、 B_r は $O_0 = \int_{\mathbb{R}^n} H_t^{\infty}$ の有界集合。 従って 仕意のr>>0 に対し $D=D(r)\in \mathbb{R}_+^{\infty}$ が あって、 PB_r は $H_{A(r)}^{\infty}$ の中に含まれて そこで有界 (小松 C9]、宋理 $(P\cdot 3\cdot 28)$): 定数 $C_r>0$ があって、

 $(2) \qquad PB_r \subset C_r B_{\rho(r)} .$

BrはHrで吸収的だから、結局 P:Hr→Hon でPは基礎。かか明5かにかは増加必数とCZまい、(紅終)、

(2)より、 ||P子||sin とCr||子||r であるから、特に各外に対し、

(3) || || || || || (\rangle r >> 0) .

補題 2、Q(x,3) は Δ_{ho} × C^{n} で正則で、各ス $\in \Delta_{ho}$ (=欠付(て、3の整函数と) 階数 \le 1 である、更に associated order P と associated type σ の組で $P \le \overline{P}$, σ $(+\infty, +\infty, -\infty, +\infty)$ となるものがある、即ち Q(x,0) は 指数型である、

注意. associated order P と associated type のの紐 (只の) を <u>associated category</u> との分ぶ、以上の用語については Pohkuh[13]参照 (証明) 実際、③)より、スモロ_{のい} こ(こ、

|Q(x13)| < Z ||b_n||_son, ||3| < Cr Z | r^n ||3| | (紅路)

 $|Z_{b_m}(x)3^m| = |Q(x)3)| \in A_{\epsilon}$ sup $\langle \epsilon \vec{e} + \sigma(x), |\vec{3}| \rangle$. $\langle \ell, \tau \rangle = \langle \epsilon, \tau \rangle = \langle$

== (Ee+oa) ". M & & th (#",

ここで約2は正則11°ラメータユEAnoをもつるの整配勢P=その以3°を(4) P(3) = Q(3) 20p(-<2,3>)

と定義な、これは各のに対し、

(4)'
$$a_{\alpha}(x) = \sum_{n \in d} \frac{b_{n}(x)}{(d-n)!} (-x)^{d-n}$$

て云ってもよい、 P(x/3) はるについて指数型である。

注意、色に名外に対し次の连公式を得る:

(4)"
$$b_{\mu}(x) = \frac{a_{\mu}(x)}{a_{\mu}(\mu - \lambda)!} \chi^{m-d}$$

以上のことより、次の定理を得る:

(証明) まず名の(は) は上半連続として構めないことは、かめりに lim sup (な) なる函数を考えればよい入5明5か、そこで、各は た対し(4)' なび (3)' かる、 イモ魚の タ>>では) (二久十し、

$$|Q_{\alpha}(x)| \leq \frac{|\vec{x}|^{d-m}}{n \leq \alpha} \frac{|\vec{x}|^{d-m}}{(d-m)!} |Q_{\alpha}(x)| \leq C_{p} \sum_{m \leq \alpha} \frac{|\vec{x}|^{d-m}}{(d-m)!} \frac{p^{m}}{m!}$$

$$= C_{p} \frac{1}{d!} (p + |\vec{x}|)^{d}$$

次に、名子をH゚と名えをひかでのはり+2はくくりたる的に好し

102 foot = 11511 (r-12)-4 41

だから、結局

冬、 Qは、3) はあるか>>0 (z女女(, associated category \leq (き,の以)) をもってしまり、すると、 $P: O(\Delta_r) \rightarrow O(\Delta_{r!,r})$ (for every r>>0) であり、かっ P は作用事: $O(\Delta_r) \rightarrow O(\Delta_{(z \in +0)^{-1},r})$ として 術分分 作用系 $P(X,Q_r) = P(X,Q_r)$ の形 である。

注意. 以より, 結局, 層峰同型を与いあいような無限階級分作用意の表象は, 簡単の為 n=1 として, 階数 1, 正規型 ということにおる.

2. 134

ここでは、 r>>0 に対し、 $r^{\frac{1}{2}} = (r^{\frac{1}{2}}, r^{\frac{1}{2}}, ..., r^{\frac{1}{2}})$ と書く、 1° の以) = $\sigma \cdot |\vec{x}|^{\frac{1}{2}}$ mick $\sigma > 0$.

 $P: f(x) \mapsto \sum_{n}^{\infty} b_{n}(x) D_{n}^{m} f(x) : O(\Delta_{n}) \rightarrow O(\Delta_{n}^{2})$ (r>>0)

 $\frac{\zeta_{\alpha_{\alpha}(x)}D_{\alpha}^{\alpha}: O(\Delta_{r}) \rightarrow O(\Delta_{-r+\sqrt{r+8r}})}{2^{\alpha}}$ $2^{\alpha} C(x) = 0 \cdot |\overrightarrow{x}|^{\frac{1}{2}} - 2|\overrightarrow{x}| \quad (r >> 0)$ = 0.004

 $P: O(Q^{L}) \rightarrow O(Q^{L}) \qquad \exists \ L << \frac{L}{2}$ $P: O(Q^{L}) \rightarrow O(Q^{L}) \qquad \exists \ L << \frac{L}{2}$

かつ

ZavaiDa: O (Or) > O(Or= ro).

 $3,^{\circ}$ $\sigma(x) \equiv 0$.

in B\$, $Q(x,3) \equiv conet$, $i \equiv 1 \geq c \neq j$. $i \neq 2$, P(x,3) = conet. $P: f(x) \mapsto f(x) \in C$

となる、また実際

Zaa (2) Pa fa) = Z (-x) Da fa) = f(0).

4° P(X13) が 3にかいて 指勢型 0 の時、

: 0) B\$, Q(x,3) = ea,3> P(x,3) (\$ associated category (\$, 121) Et >

3. 無限階級分方程式

さて,以下では Pu=fの x=0 での局所可解性,即ち、P:0。 →0。の全射性を考えることにする。これからは、P,R,r などはスカラー を表わすとする。 さて、 C^n 上の $\{0\}$ に関する正則超函数の全体(S,k,k、C[4]) $\beta_{collo}^{\infty} = H_{coll}^{\infty}(\mathcal{O}_{C}) = \{u = \mathcal{L}_{collo} u_{d} \delta^{\omega} u_{d}\} \mathcal{L}_{collo}^{\omega}$ の整函数 $\delta^{\omega} u_{d} \in \mathcal{L}_{collo}^{\omega}$ の整函数 $\delta^{\omega} u_{d} \in \mathcal{L}_{collo}^{\omega}$

は (FS) 空間であるが、ここでは次のことにだけは急してなく。

(5)
$$x^{\beta} \delta^{(\alpha)}(x) = \begin{cases} (-1)^{|\beta|} \frac{d!}{(d-\beta)!} \delta^{(\alpha-\beta)}(x) & (\beta \leq \alpha) \\ 0 & (\beta \neq \alpha) \end{cases}$$

東にそれはいの内積によって (DFS)空間のに双対な (FS)空間と同一種出れる: 任意のチェ マチャスを Cのと $u= 2u_d \delta^{(a)}(a) \in \hat{R}_{011(C^{(a)})}$ (6) $(5, u) = 2(-1)^{(a)} d! f_a u_d$ (K. K. [7]).

さて、Coを更にその名たのTaylon展開の信勢の成す空間

E = E 9= (9) == 1 2 9 2 0 3

と同-視するたで、チ→ (DMG(0)) : 00 → E . その位相を一応書いて ホニカ: 9=(9) (=9+1、norm

11911, = pup 191 9-1M (M!) + (P>0)

とかす Banach 空間 Ep:={4=(4)| 11911g<+の3と定動して

 $E \simeq l_{ij} E_p = \{q=(q_i) \mid p>0 が存在(2 (|q|)_p < + ps].$ (DFS)を聞てにて B_{83} $c_{ij} \simeq E' = \{q=(q_i) \mid f = 0 \}>0 (= x \neq (.) | |q||^2 = 2$ $c_{ij} = c_{ij} = c_{i$

指数型のの整函数の空間(Z出3~14=(化) EE了と同一根する:

(7)
$$g(u)(3) = \langle e^{0.3}, u(0) \rangle$$
 (3 $\in C^*$).

そこで転置写像、ヤ: Bissic → Brisic は

ヤリ=ヤ(ス,D,) = 子(一) Dx (Q, ロ) (ロ) = ス(イ) (カ) (カ) (カ) では、ないまままれるから、ヤ:ビーラビと思ってみれば、

(7)' 引(中山) = $P(D_3,3)$ (牙山(3) i= $Z_3^4 a_2(D_3)$ (牙山(3) . さて、同一根 $O_0 \simeq E$ (こよって $P: O_0 \to O_0$ (まど)たるか見る: 名人に 好(、 $Q_4(x)=$ $Z_3^2 Z_3^3$ と展開する、仕覧の G= $Z_3^2 E_4 Z_4 C_5 O_0$ (二対(、

 $= \frac{2}{S} \left(\sum_{i=1}^{\infty} \frac{x_i}{S} \sum_{i=1}$

 $= Z \left(Z C_{x}^{x} D^{\alpha} f_{0} \right) \frac{\chi^{\alpha}}{\chi^{\alpha}}$ $= Z \left(Z C_{x}^{x} D^{\alpha} f_{0} \right) \frac{\chi^{\alpha}}{\chi^{\alpha}}.$

即5, P に対し、その特性《行列》 $C_P := (C_n^n)_{(n,s)} e^{-\frac{1}{2}} \chi_{p_n^n} \geq t_n$ けば、 $O_n \simeq E$ の下 P は C_P と同一視士れる:

さて、P:Oo→Ooが全射である為の义要十分条件はいの2つが同時に成立っことである:

- (1) た。モーラモ は単射、
- ji) 像 CP(E) はEで閉である。

(DFS)空間と(FS)空間のみ対性にあいては関値球の定理が成立つ (小松 [9]) 6-3, 小は更に終て同値である:

心、像 tCp(E')は E'で閉である。

たこで、まずりが成立たいはではなないかる くく行うリンCpは、その形の見易いものを打ろことになる。Cpの形はなででリスはいどを考える:

61 I. Cp が 《上三角行列》 になる:

P=P(J1Dx)= そa(U) Dx は 1多数 Qx CU) が は《階》 以下の90項式である時, Kopo BE G HUK 型 と 云あり、これは Kopo BE G HUK C10了 がこの型の作用素を最初に扱ったことによる: Qx Cx)= この型の作用素を最初に扱ったことによる: Qx Cx)= このでは のこし、Qx = こののでは ないことのでは のこし、Qx = こののでは ないことのでは ないことのでは ひょう を扱ってなり、かっ 考入る方程式 Pu=チ で いと子は整函数、

さて、この時には、

$$C_{N}^{n} = \begin{cases} \gamma \mid Z & Q_{N-d}^{n-d} \\ 0 & (\gamma \leq N) \end{cases}$$

CCPは《上三角行列》、作って名対角成分Cのキのとすれば、 でp:E'→E'は単射である、特に、Pが定数倍数でなるはら時は

$$C_{p} = \begin{bmatrix} a_{0} & a_{1} & a_{2} & a_{3} & \dots \\ a_{0} & a_{1} & a_{2} & \dots \\ a_{0} & a_{1} & \dots \\ 0 & a_{0} & \dots \end{bmatrix}$$

何II. Cpが《下三角行列》になる:

P=P(ス)及)=星の(ス)及は各修数の(の)が=メのるの形の

時、確定特異型であるなら、この場合、

$$C_{N}^{m} = \begin{cases} 0 & (**) \\ 3! & (**) \\ 4! & (**) \end{cases}$$

と CP は 《下二角行列》》、後って 好角成分 CM + 0 (M) とすればら 40E (= 対はし、 CP(化)=4 は 一意 な形式像 9=(な) を手まつ、 特に、 P= そのよれなりの形のほ、 P は Eulen 型 であるという、この時

$$C_{7} = \begin{bmatrix} a_{0} \\ \frac{a_{0}}{1!} + a_{1} \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} 2! \left(\frac{a_{0}}{2!} + \frac{a_{1}}{1!} + a_{2} \right) \\ 3! \left(\frac{a_{0}}{3!} + \frac{a_{1}}{2!} + \frac{a_{2}}{1!} + a_{3} \right) \end{bmatrix}$$

例にば 定数倍数 $P=ZQ_LQ_L^A$ の場合を振返ってみよう (Cf. 河后 [8], Martineau [12]). $X=(X_L)\in E'$, $Y=(K_L)\in C^{\frac{1}{4}}$ と(Z. $\nabla_P Y=Y$ が形式的に成立ってすると、 $X_{M}=\sum_{k=1}^{N}Q_{M-k}Y_{k}$ (YM) てなるが、これは、 $X(3):=\sum_{k=1}^{N}X_{M-k}^{M}$ 、 $\Psi(3):=\sum_{k=1}^{N}K_{k}^{M}$ $\in \mathbb{C}(C337)$ と かいて ($(Q_L,X_L(3))$ は 指勢型のの整函 数)、 X(3)=P(3) $\Psi(3)$ こいって、 $(Q_L,X_L(3))$ は 指勢型のの整函 数)、 X(3)=P(3) $\Psi(3)$ こいって、 $(Q_L,X_L(3))$ は 指勢型のの移函 数)、 $(X_L(3))$ は 指勢型の $(X_L(3))$ は $(X_L(3))$

| 補題 3、(Hörmander [4])、 A, B, R>0 とし、F(z), G(z)。
| F(z)/G(z) を BR = {zeC|(a|<R} 上の(を数) 正則函数で、
| (G(0)) + 0 か> | F(z)| と (G(2)) は BR 上で 夫々 A, B で上かる むれ

うれるとする: sup | F(z) | ミA , sup | G(z) | ミB 、 BR BR Eで

$$\left|\frac{G(s)}{G(s)}\right| \leq A \cdot B^{\frac{|S|}{|S|}} \left|\frac{G(o)}{e^{-ist}}\right|^{\frac{|S|}{|S|}}$$

そこで、E'の列 (4k) と(xe) で E'で (xe) (なつか) ちまものに対し、 Cp 4k= xk であるとするこ、この情題かる、(Ye(3))は O(で) での正規列 とない、あるきが列((Ye(3))があって ある Ye(3)に O(で) 内で43束する、そこでもか一度この行題 を使って Ye(3) e E'がいんる、in 対心なる 4=(比) e E' で 結局 (i) がいんる。

4. KopoBEŭHUK型作用素の全射性、

P= 是の以及= 是是のよりなを KopoBEüHuk 型とすれば、例II よいCpは上三角行列である、そこでいの定理を証明する:

定理 2. 次の条件(7),(8)の下 P:00 つの(は全射である)
(7) A. >0 及び 「6. E]の,([が存在して、各外に対し、
(CM(> A. r.m)

(6) $r \in J_0, r_0 \in \mathcal{N}$ 你在(,任意 $\Omega \in \mathcal{N}$ (for $\lambda < M$).

また

定理 3. 次の条件 (9),(10)の下 P:00 → 00 は全身すである; (9) 化意の Ao>oにならし、mo>o があって、101>m たるは" (10) 仕息のと>のに好し、Aと>のがあって、

$$|C_{n}^{N}| \leq A_{\epsilon} \frac{\lambda!}{\mu!} \epsilon^{|m-N|}$$
 (for $\lambda \leq m$).

(京理20を正明)、(で)より、名 Cが+0 であるからは) はの(に、いたに、 (中の)、(Xの) CE'、 Xをつなび い E' かっ

I YER RIMM!

とする、ここで簡単の為 ヤキモニ 中里中で、火をだニ ガニスセンともくと、いいは、

$$\begin{cases} \psi_{n}^{*e} = \frac{1}{C_{n}^{e}} \left(\chi_{n}^{*e} - \sum_{i \in \mathcal{N}} C_{i}^{i} \psi_{n}^{*e} \right) & (n > 0) \end{cases}$$

と信え、場合はで、仕意のR>O (=なま(、 $B^{eR'}(R)>O$ で $R,R'\to \infty$ の時 O(z 4) 東するものがあって、 $Aup (4,R') R^{IM} A! < B^{RE'}(R)$ と信え ものがあることを示った。 (2) と条件 (2)、(3) より、(4) かん

\[
 \left\(\left\) \(\l

M(が大とされば"

かく(で (4名) は E'の Counchy 列でなり 結局 ある 4 CE' (= 40束する、 よって (ii) が言正明 された、(言正終) (定理3の言正日)、定理2の言正日と同本表 (=(Z, まず) をく尺寸 (=女ま)、 $Ao > Ae \frac{2ER}{(I-ER)^n}$ ととって、女子だっする $m (=X \neq I)$ | M | > m と すれば) $(\psi_{M}^{RR} | | R|^{M} M! | \leq X^{RR}(R) + \frac{A}{Ao} \sum_{N \in N} N! E^{IM} N! | Y^{RR}| | R^{IM} | Y^{RR}| | X^{IM} | X^{IM}$

となり、定理とと同様にいい証明が終める、(証終)

5. 石窟定特異型作用季の全外性.

福定特異型の3級分作用素 $P= Za_{4}(\lambda)Q^{4} = Z \lambda^{4} \hat{Q}(\lambda)Q^{4}$ (=2x+(元は、定理 4、次の条件 (13)、(14)の下 $P:O_0 \rightarrow O_0$ (古全 (単) 射: (13) $P\in J^{0}, IC \ AV^{*}C>0$ があって、 任息のM(=5x+(、1CM) > C P(M)

(14) E0>0が存在し、任意の5>0(で女し N>0 があって 1C元 | <N 5 M 25 lot ア (ア>ハ)

(証明).ここでは、任意の f=をかながらのになまい、み=をまっている。 らので Pタ=チはるものを見けけより、思Pち たてがかか=らった

(15)
$$\begin{cases} \theta_0 = \frac{f_0}{C_0^2} \\ \theta_7 = \frac{1}{C_0^2} (\theta_7 - \frac{f_0}{f_0} C_0^2 \frac{f_0}{f_0} \theta_0) \end{cases}$$
 (8>0)

からければなららい、ここであるR>Oがあって 19m1 = RIM (for energy 2) となることを帰納法で示る: ME = Sup 1 fox 1 とおくと、

16y1 ≤ ME E-171 , 2=2 (15) +1.

1 まり = r-181 [M & E-187 + N Z 5 m E-187 PIM]

= [Me (rep-187 + N Z (rep)-18-18 (元) m] RIST

るくreo (く1) か> R> max (おり、2を7 ME、(res)ー) ととれば、
でもく1、reo R<1 たわる まる。

6. Euler 型の方程式

Euler型の微分作用素 P= Zaszd Dd を考えよう、先ず、

<u>命題</u> 1. P:00→00 が全射である為には、次の条件が成立つこれが必要十分である:

(16) re Jo,1C & C>O が存在して,

(CM) > C r(M) (for every M).

(部)、コースラッスで、ナースチャスでもの(一気まし、トラーチとは

(17) Cm 3m = fm (far every m)

 生、 a_0 +0 かっ 名 a_0 の とする 日本 、 Eulen の 物分作円蓄 $P = 2a_0 \times D_x^{\alpha}$ は (16) を 満 たす、 徒って $P : 0_0$ つの は 全学射である、 (記 a_0) 東 は $C_x^{\alpha} = \mathcal{M}_{a_0}^{\alpha} \subset A_0$ こ a_0 こ る る こ ある、

((8) $x_1 = e^{\epsilon_1}, x_2 = e^{\epsilon_2}, ..., x_n = e^{\epsilon_n}$ を行んば、

(19) $\chi^{4}Q_{\chi}^{1} = \prod_{i=1}^{n} D_{4}(D_{4}-i) - (D_{4}-(4-i))$ であるか3 定数倍数の場合の結果(Martineau [12] (18) (19) (1

(証明) 実際 8=(8,82,..., En), Ez=±1 202.

 $U_{c}:=\{\chi_{c}C'\mid \xi_{L_{n}}\chi_{s}>0\ (s=1,2,...,n)\}$ とかくと、 $P:O(U_{c})\to O(U_{c})$ は全射である。それは実際、 $U_{c}(=t_{n})$ に $t_{s}=\log \chi_{s}$ (1655 $t_{s}=1$) と复数 $t_{s}=1$ に表現 (こ、 $t_{s}=1$) と $t_{s}=1$ に 関 $t_{s}=1$ に t_{s

さて、次にならして、(なべ、くの)におけるりお食、も言目かよう、即ち、かりんば、 えら、一、スニョの、スポリ、、、、スニ キの たるにできんたい、そこで簡単の為記号を変えて、

X=(ス,ス2,…,スn) , 4=(と,、42,~,とm)
とし (ス,と)を数の Eulen 型の同情能な分作用素

 $P = Z_{0,p} \times {}^{0}y^{p} D_{x}^{d} D_{y}^{d} : O_{cm} \times cm \rightarrow O_{cm} \times cm$ を考えよう。 以下,条件 (16) を依定 (, 点 (以,3) = (0,1) , 1,..., 1,..., 1,...) ないまり で 考える。 妄数変換 (16)' (ス,3) \mapsto (ス,5) \mapsto (ス,6) = (0,0) で 考えることに たる : 化急の (以,1+) $\in B_{63}$ cm (=欠+(,

牙(tpu)(3, 4) = P(D3, 3, 4) (9,4) (3, 元)

:= Z Q 3 3 4 7 8 P3 (3, W)(3, T)

> 91 (40 m) (3, E) = 2 M! By Unx 3 M EXTB = Z(ZM! Exp TF) (2 Unx Tx) 3 M

であるか3, 条件 (16) よい, $|\hat{y}_{00}| \ge C r^{(m)} / M!$ と信るので, まず (20) よい $^{\text{tp}}: B_{03}|_{\mathbb{C}^{m,m}} \to B_{03}|_{\mathbb{C}^{m,m}}$ は専身すに $^{\text{tp}}: 5.3$ ぶたこ, 列 $^{\text{tp}}: 5.3$ が $^{\text{tp}}: 5.3$ すれば、 $^{\text{tp}}: 5.3$ が $^{\text{tp}}: 5.3$ すれば、 $^{\text{tp}}: 5.3$ が $^{\text{tp}}: 5.3$ すれば、 $^{\text{tp}}: 5.3$ が $^{\text{tp}}: 5.3$ でか $^{\text{tp}: 5.3}$ でか $^{\text{tp}: 5.3}$ でか $^{\text{tp}: 5.3}$ でか $^{\text{tp}: 5.3}$ でか $^{\text{tp}: 5.3}$

 $|u^{4}(3,7) - u^{2}(3,7)| = |\sum_{n,n} (u_{n}^{2} - u_{n}^{2}) + \lambda_{3}^{2} \wedge |$ $\leq \sum_{n,n} |v_{n}^{2} - v_{n}^{2}| |R^{|n|} |c_{1}3|^{|n|} |m_{n}^{2}| |C|^{2} |u_{1}^{2}| |R^{|n|}| |h_{1}^{2}| |h_{$

のに伝来、R>のは任意でかる結局 U*(3,て)はのCC"メロ")内であるい(3,て)に4又東する 句論 形式的には 中以二ひである、以上のことと U*-U*!のかりに以(=x*(て行って 以EE'がわかる、作って、ひ=中以 G Im中 となり、 Im中は 閉である、よって、

定理 6、条件 (16)の下,Eulen型の局所、物合作用素 P= Zan 2 n D2 1 2 cm → Och は全射である。

文 献

- [1] Aoki T., 無限階級微分作用集の表象理論,数理研講祭録c468.
- [2] Aoki T., Calcul exponentiel des opérateurs m'icrodifférentiels II, ca paraître).
- [3] Aoki T., Kashiwara M. & Kawai T., On a class of linear differential operators of infinite order with finite Index (5 appear).
- [4] Hörmander L., On the range of convolution operators, Am. Math. 76 (1962), 148-170.
- [5] Ishimura R., Homomorphisme du faisceau des gernes de fonction holomorphe dans lui-même et opérateurs différentiels, Mem. Fac. Sai. Kyushu Unia. 32(1978), 301-312.
- [6] Ishimura R., Existence locale de solutions holomorphes
 pour les équations différentielles d'ondre infini, à paraître
 dans Ann. Inst. Fourier Grenoble 35 (1985).

- [7] Kashiwara M. & Kavai T., On holonomic systems of microdifferential equations II, Publ RIMS Kyoto Umir. 17(1981), 831-979.
- [8] Kawai T., On the theory of Fourier hyperfunctions and its applications to partial differential equations with constant coefficients, J. Fac. Sci. Union Tokyo, Sed. IA 17 (1870), 467-517.
- [9] Komatsu H. 佐藤の超函数と定数係数線形偏微分方程式,東大セミナリー・ノート 22, 1968。
- [10] Когобенник Ю.Ф. Исслепование шифференциальных уравнений обеконечного поглека с полиноми альными коэффициентами с помощью операторных уравнений интеррального типа, Мат. Сб 49 (1969), 1911-206
- [17] Левин В. Я. Распрепеленче корней щелых футкций, Госур. Изд. Москва, 1956.
- [72] Martineau A. Equations différentielles d'ordre infini, Bull. Soc. Morth.
 France 95 (1967), 109-154.
- [73] Ронкин Л.И. Введение в теорию шелых рункций мнових пере-
- [74] Sato M. Kawai T. & Kashiwara M., Microfunctions and pseudo-differential equations, Lecture Notes in Math., No. 287, Springer (1973), 265-529.